

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800233		
法人名	有限会社 あきの		
事業所名	グループホーム ひなたの家	ユニット名: 2ユニット	
所在地	福岡県田川郡福智町弁城2482番地1		
自己評価作成日	平成23年7月24日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月10日	評価結果確定日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度以上は外出、外食、買い物の行事を行い、ストレス軽減や気分転換に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老人は永年にわたり社会の進展に寄与してきた人生の先輩である、豊かな自然環境の中で地域との交流を行いながら楽しく過ごしていただくという理念のもと、管理者・職員は朝礼で唱和し、胸に刻み、実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の広報誌を配達していただいたり、散歩途中で出会った方と話をしたり、花をもらったり、学校帰りの学生が立ち寄りたり、山笠が来たりと少しずつではあるが、地域の一員として交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向け、認知症の人の理解や支援の方法を活かす事が出来ていないが、運営推進会議や散歩等で出会った方に少しずつではあるが、話してはいる。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とサービスの実際の状況報告・課題等を話し合い、会議の中での意見や要望をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃はサービスに必要な書類手続き等での協力関係と推進会議に参加していただき、意見や要望等を伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為についての資料をいつでも、目が通せるように作成している。代表者・全職員が理解しており、身体拘束・玄関の施錠はしないケアに取り組んでいる。玄関には開閉時にチャイムが鳴るように工夫をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域での勉強会への参加、高齢者虐待防止関連法について、いつでも目が通せるようにしており、全員が意識を持ち、防止に努めている。	

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関先に、成年後見制度についての資料の掲示やパンフレットを置き、自由に見る事が出来るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時には十分な説明と不安や疑問点等を聞き、利用者、家族が理解・納得できるように努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見・要望を表せるように、玄関に意見箱を設置しているが、管理者や職員に直接相談されており、それらを運営に反映させている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や、親睦会、個人面談などを通じて意見や提案などを聞き、運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を把握し、皆勤手当・資格手当・残業手当・賞与等を考慮し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり、性別・年齢等は問わず、仕事に対する熱意があれば採用している。採用後、3ヵ月間の試用期間を設けている。働いている職員に対し、能力を十分に発揮できるよう資格取得等の支援を行っている。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	町主催の勉強会への参加、いつでも目を通せるように、掲示したりと啓発活動に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの技術・能力等を把握し、有資格者を通しての指導・勉強会等を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、月に一度福智町のグループホーム協議会に参加したり、職員は協議会主催の勉強会に参加したり、相互訪問等を行ったりと、交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員が面談の中で、利用者が安心して過ごせるように要望等に耳を傾けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員が面談の中で、要望等がいつでも言えるような関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が面談の上で、利用者・家族等が必要としている支援を伺い、他のサービス利用も検討し、支援している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、職員が分からない事等を教えて頂いたり、家族のような関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員にしかできない事、家族にしか出来ない事を把握し、面会等で家族とコミュニケーションを図り、利用者を支えていける関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、要望があれば出来るだけ支援できるよう努めている。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係・状況等を把握し、職員が一緒になり、会話やレクリエーション等の声掛けをしたりと、利用者同士の関わり合い・支え合いができ、孤立せずに過ごせるよう支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切に、手紙や電話・お見舞い等で関わりを持ち、利用者・家族の相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別でのコミュニケーションを図る中で、個々の思いや暮らし方の希望、意向等を把握している。困難な場合は、なるべく本人本意に沿うように検討している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの暮らしやサービス利用の経過などの把握を行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方、心身状態、有する力等を職員は、コミュニケーションを図り、情報の共有をしながら、現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、より良く暮らす為に、利用者・家族・職員・看護師の意見・要望を収集し、現状に即した介護計画を計画作成担当者が作成している。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、状態の変化等を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直し・実践につなげている。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向・状態に応じ、既存のサービス以外（訪問マッサージ・訪問カット・訪問診療・病院の送迎）等の支援に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑で採れた野菜や、近所の方から頂いた野菜や果物等、家族手作りの漬物を食事に使用したり、冬は干し柿作りをしたりと地域資源を取り入れている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問診療を取り入れているが、急変時・利用者・家族等の希望があれば受診をし、かかりつけ医と事業所との関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	介護職は、利用者と日常の関わりの中で体調の変化等があれば、訪問看護師に報告し、かかりつけ医や住診医師に相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療・早期退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃からは、病院受診の際に情報交換等を行い、関係づくりは行っているが、入院に備えては行っていない。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所された段階で、重度化した場合等の事業所で対応出来る事は説明を行っている。状態が悪化した時点で、今後の方針を話しあいながら支援している。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時に備えて、いつでも目を通せるようマニュアルは作成しているが、訓練は行なっておらず、何かあれば看護師に相談し、指示を仰いでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての理解はしているが、昼夜を問わない避難方法は一部しか身につけておらず、地域との協力体制も一部でしか築けていない。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー等を損ねないように、個々に合わせた声掛けや対応をしている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日々の利用者との関わりを深める中で、信頼関係を築いており、利用者は思いや希望を表したりできている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを決めているが、一人ひとりのペースや体調の変化等に合わせ、どのように過ごしたいか伺い、支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する際は、自分で服を選んでいただいたり、外出する際は、いつもと違う服を選んでいただいたり、好みの物を購入したり、訪問カット・なじみの美容室を利用したりと、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、職員と利用者が一緒にメニューを決め、買い物・準備等を行っている。準備も一人一人の好みや力を活かし、楽しく食事している。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、食事量・水分量が分かるようにしており、職員はそれを共有し利用者の状態等を把握し、習慣に応じた支援をしている。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、訪問歯科の指導のもと、口腔ケアの大切さを理解しており、個々の力に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や・自尊心を傷つけない声掛けにて、排泄の自立にむけた支援をしている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、食物繊維を多く摂ってもらったり、乳製品を飲んでもらったり、出来る利用者には体操や散歩等で体を動かしてもらったりしている。それでも便秘が続くようであれば、看護師に相談し内服薬等で対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はある程度決めているが、希望があれば、なるべく希望に沿えるよう個々に合わせて支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて、自由な休息と夜間安心して休めるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の薬の目的・内容等を把握し、服薬管理しており、症状の変化等があれば看護師に相談するようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある生活ができるように、利用者に応じ、小物作り・塗り絵・好きなテレビ鑑賞・マッサージ・散歩等気分転換できるよう支援している。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>月に一度季節に合った場所へ外出している。個別に、ホーム外での歩行運動や近所へ散歩に行ったり、家族と外出したりと本人の希望に合わせて出かけられるよう支援している。</p>		
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は、利用者がお金を持つ事の大切さを理解し、利用者の状態に応じて、所持していただいたり、買い物をする際に、使えるよう支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、いつでも電話をかけたり、ハガキや便箋等を提供し、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、季節に応じ温度調節を行っている。また、季節の花を置いたり、日常の様子を撮った写真等を飾ったりしている。調理での音・匂い等もほどよく、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間や廊下等にソファを置き、気の合った方々と一緒に過ごせるような空間を設けている。また、居室は個室であるため、ゆっくりと過ごせるような環境にしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の居室には、利用者・家族と相談しながら、馴染みの物等を持ち込んでもらっている。利用者本人が居心地よく過ごせるように、配置や不足品の購入などを支援している。</p>		
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、手摺りを設置したり、バリアフリーである為、歩行や車椅子での移動がしやすいようにしている。その他居室等、場所が分かるように表札や掲示をしたりとできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		